

保育者養成課程の子どもの歌のピアノ指導における
平易な原曲伴奏・本格伴奏の教材性および実践報告（報告）

Significance of Original and Simplified Teaching Material of
Children's Songs Piano Accompaniment : Practical Report

山本 学 カタヴァ美紀 田代千早 原川洋子 原田大雪

丸尾真紀子 八木名菜子 山田美穂子 鷺巣貴乃

YAMAMOTO Manabu , KAHTAVA Miki, TASHIRO Chisa,
HARAKAWA Youko, HARADA Hiroyuki, MARUO Makiko,
YAGI Nanako, YAMADA Mihoko, WASHIZU Takano

要旨

本研究は、保育者養成課程における子どもの歌のピアノ指導についての実践報告である。

原曲伴奏には、その「作曲者自身が子どもの歌の世界を表現するために作った伴奏」であるという特徴があり、教育的意義がある。それに準ずる本格伴奏も同様である。しかし、原曲伴奏・本格伴奏はピアノ初心者には難しいことがあるため、先行研究としては、簡易伴奏をいかに利用するかに向きがちである。そこで、平易な原曲伴奏・本格伴奏によるピアノ指導教材集を作成し、その実践指導を試みた。

結果として、その教材は、ピアノ指導の初期の段階から子どもの歌の伴奏レパートリーを身につけられるものであり、85%の対象者が到達目標を達成することができるものであった。

Keywords: 保育者養成課程、子どもの歌、ピアノ指導、原曲伴奏、本格伴奏

¹ 筆頭著者以外は、静岡県立大学短期大学部非常勤講師

I. 序論

1. 用語の定義

本稿では、以下のように用語を定義する。

保育者養成：幼稚園教諭養成教職課程、指定保育士養成課程を合わせたもの。

保育現場：幼稚園教諭免許、保育士資格の有資格者がその免許や資格を利用して保育する場。

子どもの歌：童謡、唱歌、新しい子どもの歌など。

ピアノ：ピアノ、電子ピアノ、オルガン、キーボードなど鍵盤楽器の総称。

原曲伴奏：作曲者が作った伴奏。

本格伴奏：作曲者以外が作った伴奏で、原曲伴奏に準ずるもの。

簡易伴奏：作曲者以外が作った伴奏で、ピアノ初心者のために編曲されたもの。

2. 研究の背景

日本の保育者養成の養成校においては、保育者の資質の一つとして、子どもの歌のピアノ伴奏ができる能力を習得することを求めていることが多い¹⁾。

また、保育現場でのピアノ伴奏の必要性を示した研究として、多保田（2004）²⁾の調査がある。この研究では、保育実践現場で子どもの歌を指導するとき、伴奏をつける割合は、「全て伴奏をつける」「ほとんど伴奏をつける」で74%を占めると報告している。逆に、伴奏をまったくつけないのは、5%となっている。伴奏に使われている楽器は、「ピアノ」と「電子ピアノ・オルガン・キーボード」合わせて70%となっている。

つまり、保育者養成と保育現場の両方において、ピアノ伴奏の能力は必要とされていることになる。

原曲伴奏、本格伴奏、簡易伴奏はそれぞれ一長一短であるが、保育表現技術の目標の中にある「子どもの遊びを豊かに展開するため」³⁾を体現するものでなくてはならない。このうち、原曲伴奏は、子どもの歌の作曲者が曲の世界を表現するために作ったものである。本格伴奏は作曲者以外の伴奏ではあるが、これに準ずる内容となっている。全国大学音楽教育学会編（2013）⁴⁾では、「保育学生への便宜から簡易伴奏版が氾濫し、（中略）オリジナル楽譜は、学生の音楽力では弾き歌いの教材として機能しないという考えもある。」と述べている。しかし、作曲者が子どものために作った「曲の世界を表現する原曲伴奏」、それに準ずる本格伴奏を子どもに伝え歌唱活動を行うことには、一つの教育的意義を見出すことができる。

原曲伴奏・本格伴奏のピアノ演奏の難易度は様々で、その中には平易なものも存在する。井岡（2001）⁵⁾や、西村（2007）⁶⁾、紙屋、後藤（2008）⁷⁾、岡村（2010）⁸⁾、藤田（2014）⁹⁾のように、簡易伴奏の教材性について研究したものは数多くあるが、原曲伴奏・本格伴奏のうち平易なもの教材性に注目し、保育者養成のピア

ノ指導に活かした研究や報告は、きわめて少ない。

Ⅱ. 研究目的

本研究においては、以下の2つを研究目的とする。1つ目は、平易な原曲伴奏・本格伴奏を収集し、保育者養成のためのピアノ指導教材集を作成すること。2つ目は、保育者養成課程の学生に実践指導を行い、その修得状況から教材としての価値を明らかにすること。

Ⅲ. 研究方法

1. 子どもの歌の平易な原曲伴奏・本格伴奏の教材集の作成

1) 対象と作成期間

対象：子どもの歌の原曲伴奏・本格伴奏 150 曲

作成期間：2014 年 4 月 2 日から 4 月 10 日

2) 研究方法、作成方法

対象曲のうち、以下の2つの条件を満たすものを抽出する。

(1) 左手の伴奏が、和音記号 I、IV²、V¹、V¹₇ の 4 つの和音を主体に構成されている。

(2) 在原、菊本、柳田 (1999)¹⁰⁾ と秋山 (2012)¹¹⁾ の「保育現場で使用されている曲」の調査で、上位に挙げられている。

そして、抽出された楽曲を出来る限り難易度順となるよう配置し、難しい方から C ランク、D ランクの二つに分ける。本稿とは直接関係しないが、ピアノ演奏技術の高い学生のために、(2) の条件のみに該当するものを AB ランクとする。

2. 保育者養成課程の学生への実践指導

1) 研究対象と実施期間

対象者：2014 年、S 短期大学「保育表現技術 I (音楽)」履修者 52 名

実施期間：2014 年 4 月～9 月、「保育表現技術 I (音楽)」授業 15 回

2) 研究方法

作成した教材集のうち、D ランク 10 曲を到達目標の一つとし、ピアノ基礎技術

を同時進行で指導しながら、達成度を調査する。

3) 調査方法

参与観察による他記式調査票の留め置き調査とする。調査は15回目の実践指導後に行う。集計は、単純集計とし、クロス集計はしない。

3. 倫理的配慮

プライバシーと個人情報を保証し、データは匿名、個人が特定できないように取り扱った。本研究において、母集団の少なさから、サンプル数の提示は行わず、百分率の割合の提示に留めることとする。以上をもって、本稿は、静岡県立大学の研究倫理講習の内容に反しないものであることをここに述べておく。

IV. 結果と考察

1. 子どもの歌の平易な原曲伴奏・本格伴奏の教材集の作成

表1. 教材集の子どもの歌の配置

ランクと曲の順番	曲名	作詞者	作曲者
D1	ちょうちょう	不詳	ドイツ曲
D2	ぶんぶんぶん	村野四郎	ボヘミア曲
D3	こぎつね	勝承夫	ドイツ曲
D4	手を叩きましょう	小林純一	外国曲
D5	むすんでひらいて	文部省唱歌	ルソー
D6	すうじの歌	夢虹二	小谷肇
D7	歯をみがきましょう	則武昭彦	則武昭彦
D8	おべんとう	天野蝶	一宮道子
D9	大きな栗の木の下で	平多正於	イギリス曲
D10	おかえりのうた	天野蝶	一宮道子
C1	あくしゅでこんにちは	まどみちお	渡辺茂
C2	しあわせなら手をたたこう	木村利人	スペイン曲
C3	思い出のアルバム	増子とし	本多鉄磨
AB1	とんぼのめがね	額賀誠志	平井康三郎
AB2	あめふりくまのこ	鶴見正夫	湯山昭
AB3	いぬのおまわりさん	佐藤義美	大中恩

表1の通りの教材集となった。DランクとCランクが前述どおり、平易な原曲伴奏・本格伴奏になる。原曲伴奏で平易なものは多くあるが、それが前述(2)の条件、つまり、保育現場で多く使用されている曲に該当しないことが多かったために、原曲伴奏ではなく本格伴奏を導入せざるを得なかった。D3、D6-10、C3、AB1がハ長調の楽曲であり、特に研究対象のDランクは、ハ長調が後方に多く、配置されることとなった。D1からD5までは右手のポジショニングチェンジがなるべく起こらないように配置したためである。

2. 保育者養成課程の学生への実践指導

2014年9月の15回目の実践指導の後、Dランク10曲の到達度を調査し、単純集計した。回収率は、96.2%(50名)である。教材集の到達度は、最終的に対象者の85%が到達した。先行研究では、ピアノ初心者には原曲伴奏・本格伴奏は難しいと考えられているが、教材の選択によっては、初心者でも10曲の子どもの歌の原曲伴奏・本格伴奏のレパートリーを持つことができる結果となった。

V. 結論

1. 子どもの歌のピアノ指導における平易な原曲伴奏・本格伴奏の教材性

教材としては、85%の保育者養成課程の学生が到達でき、また、初期の段階から子どもの歌の伴奏を指導することができるものであった。保育技術内容のうち音楽で行うピアノ指導はあくまで、子どもの歌を伴奏するためのものである。さらには、子どもの歌のピアノ伴奏が最終目的ではなく、前述の指定保育士養成施設指定基準に示された保育表現技術の目標の中にある「子どもの遊びを豊かに展開するため」³⁾の一助である。多くの先行研究では、そのために簡易伴奏を有効的に利用していたが、原曲伴奏・本格伴奏の持つ、作曲者が子どものために作った曲の世界を表現するという教育的意義の一つを見直し、平易なものから始めることをさらに検討することも同時に進めていくことが求められる。

2. 今後の課題

本研究においては、原曲伴奏と本格伴奏をほぼ同意義として扱ったが、本来別のものであり、今後これを分けてさらに実践研究していく必要がある。また教材集の見直しも必要とされる。

VI. 注・文献

1) 保育者養成の大学4校、短期大学6校（東京都8校、静岡県2校）の2014年

度カリキュラム及びシラバスを調査したところ、10校全てにおいて、保育表現技術または音楽としての「ピアノ」の記述が見られた。(調査：山本学、2014年11月15日)

- 2) 多保田治江. 保育者養成における子どものうたの取り扱いについて(4) —アンケート調査に基づく分析—. 北陸学院短期大学紀要. 2005, 36, pp.13-27
- 3) 指定保育士養成施設指定基準(平成25年8月8日雇児発0808第2号). 2013. p.33
- 4) 全国大学音楽教育学会編. 明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌—唱歌童謡140年の歩み. 音楽之友社. P.2
- 5) 井岡みほ. 保育者養成における童謡弾き歌い(簡易伴奏付け)についての一考察. 日本保育学会大会研究論文集. 2001, 54, pp.826-827
- 6) 西村純子. 保育士に必要な初歩的和声法—簡易伴奏のために—. 東筑紫短期大学研究紀要. 2007, 38, pp.125-137
- 7) 紙屋信義, 後藤みゆき. ピアノによる子どもの歌伴奏の効果—アレンジによる伴奏法を考える—. 東京未来大学研究紀要. 2008, 1, pp.67-75
- 8) 岡村明日香. 保育者養成課程のピアノレッスンにおける問題点と工夫: 簡易伴奏を考える. 大谷大学短期大学部幼児教育保育科学研究紀要. 2010, 12, pp.1-10
- 9) 藤田光子. 弾き歌い指導における簡易伴奏について: 本学保育科学生のアンケートと事例より. 別府大学短期大学部紀要. 2014, 33, pp.165-172
- 10) 在原章子, 菊本哲也, 柳田憲一. 幼児の音楽教育に関する研究I—幼稚園での使用曲(幼児歌曲)調査と考察—. 東京女子体育大学紀要. 1999, 34, pp.81-88
- 11) 秋山治子. 今、都内の幼稚園・保育園(所)でどのような歌が歌われているか—アンケートの集計と考察—. 白梅学園大学・短期大学教育・福祉センター研究年報. 2012, 17, pp.40-46

(2014年12月8日 受理)